

平成 30 年度 鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム報告書

社会科教育プログラム～社会科における主権者教育の国際比較～

(大韓民国)

鳴門教育大学

目 次

大韓民国

社会科教育プログラム ～社会科における主権者教育の国際比較～

〈光州教育大学校〉

実施報告書 井上 奈穂	1
参加報告書 平野 裕大	11
参加報告書 手古 直規	17

平成30年度 鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 実施報告書

社会科教育プログラム ～社会科における主権者教育の国際比較～

出張者所属・氏名

教員（1名）	：	人文・社会系コース（社会）	井上 奈穂
院生（2名）	：	人文・社会系コース（社会）	平野 裕大（L3）
		人文・社会系コース（社会）	手古 直規（L3）
職員（1名）	：	教務企画部学生課国際交流係	原田 真弓
用務地	：	大韓民国・光州	
用務先	：	光州教育大学校	
出張期間	：	平成30年11月29日（木）～12月2日（日）	

1. はじめに

「グローバル教員養成プログラム（光州教育大学【韓国】・社会科教育）」は、「主権者教育」の視点から、日本と韓国の社会科の授業を比較し、よりよい主権者の育成につながるための授業の在り方について検討するとともに、両国の懸け橋となるような主権者の育成につながる方略を考えることを目的としたものである。「異なる文化」との共生をテーマとした授業の参観と検討を中心に行った。

また、今回は、当該国の歴史的な背景を理解するための事前学習を行うことで、より韓国についての理解を深めた上で研修を行った。そのため、事前学習も踏まえ、①光州事件をテーマとした映画鑑賞・検討を踏まえたフィールドワーク、②小学校の社会科授業の見学・検討会、③光州教育大学の博物館でのフィールドワークの3つを活動の核と位置づけている。

2. 研修計画・内容

2-1. 参加者・研修日程

①参加者

本研修の今回の参加者は以下のとおりである。

教員 (1名) : 人文・社会系コース (社会) 井上 奈穂
院生 (2名) : 人文・社会系コース (社会) 平野 裕大 (L3)
: 人文・社会系コース (社会) 手古 直規 (L3)

*国際交流係: 原田 真由美

②研修日程

光州教育大学での研修は、平成30年11月29日から12月2日まで行った。なお、29日は移動日として設定している。全体的な日程は表1に示した。

表1 海外研修日程

日 順	月日 (曜日)	発着地 (滞在地)	内 容
1	11月29日 (木)	鳴門→高松 高松→仁川 仁川→光州	移動 アシア航空 OZ9601 (高松 11:00→仁川 13:10) 移動 高速バス・光州駅 移動 タクシー (→光州教育大学) ゲストハウス 泊
2	11月30日 (金)	光州	光州教育大学校訪問 (授業見学, 施設見学等) 授業 1) 11:00~11:40 第6学年社会科 (多文化理解) 授業 2) 14:20~15:00 第4学年社会科 (家族の役割) →検討会 (鳴門教育大学 4名, 兵庫教育大学 1名, 大邱大学 1名, 光州教育大学: 授業者 2名, 社会科の教授 3名, 大学生 5名) →懇親会 ゲストハウス 泊

3	12月01日 (土)	光州→ ソウル	光州及び周辺の文化施設見学等 移動 光州教育大学→光州松汀駅(車) 移動 光州松汀駅→ソウル中心部 (KTX, 地下鉄) ソウル周辺文化施設見学等 ibis Budget Ambassador Seoul Dongdaemun 泊 (334 Toegyero, Jung-gu Jung-Gu Seoul, 100-411 大韓民国)
4	12月02日 (日)	ソウル →仁川 仁川→高松 高松→鳴門	ソウル周辺文化施設見学等 移動 ソウル市内→仁川空港(バス・地下鉄) 移動 アシア航空 OZ9604 (仁川発 14:50→高松 16:25)

2-2. 研修の内容

本学の窓口となった大学教員(社会系コース 井上奈穂)と光州教育大学の窓口である教員が事前に打ち合わせを行い、光州教育大学附属小学校における社会科授業の見学と大学内の施設見学及び光州事件についてのフィールドワークを行った。

3. 研修の実際

(1) 事前研修

本研修では、出発前の11月20日(火)に1980年5月に光州教育大学のある光州市で行った「光州事件」を題材とした映画、チャン・フン監督「タクシー運転手-約束は海を越えて-」の視聴を行った。光州事件とは、ソウルでの全斗煥らの軍部クーデターに抗議した韓国南部の光州市の大学生・市民と軍が衝突、学生・市民は一時市の中央部を抑えたが、軍による全面的な弾圧によって多数の犠牲者を出した事件である。死者は民間人で168人、軍人23人、警察4人、負傷者は4782人、行方不明406人という大きな犠牲をだして終結した(文京洙『韓国現代史』2005 岩波新書 p.142-147)とされるが、歴史上の解釈が確定していない。

また、光州事件の当時、軍事政権下に置かれていたため、市内での戒厳令と報道統制がしかれており、周辺の地域の人々は、光州市内でどのようなことが起こっているのか分からない状況であった。しかし、光州での出来事についての情報を得たドイツ人記者が戒厳令下の光州市内に入り、その様子を世界に報道したことによって、軍の非人道的な行為に対する世界的な批判が高まり、事態が收拾したとされる。日本では、あまりなじみのない事件であるが、政府とジャーナリズム、そして主権について考える上で非常に興味深いテーマである。



あの日、真実を追い求めたひとりのドイツ人記者と彼を乗せたタクシー運転手がいた。

1980年5月。韓国現代史上、最大の悲劇となった光州事件――

(2) 韓国での研修

①仁川空港から光州バスセンター

本研修では、仁川空港から光州への往路ではリムジンバスを使用し、高速道路を移動した。「光州事件」の様子を世界に伝えたドイツ人記者の移動経路を可能な限り、追体験することを試みた。3時間ほどの中で、韓国的高速道路やPAを体験することができた。



(写真：PAの様子)



(写真：移動中の風景)

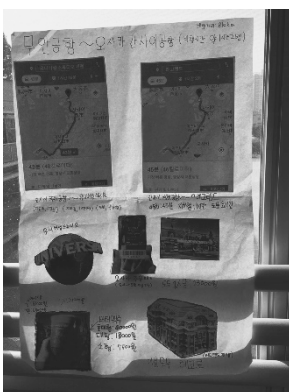
②光州教育大学での授業参観

光州教育大学附属小学校において、小学校6年生社会科「おいでよ！大阪は初めてでしょ？」と「お母さんの行動は正しいのだろうか？」を見学した。見学に当たり、事前に指導案を送付いただき、授業内容の確認を行ったうえで、授業参観を行った。

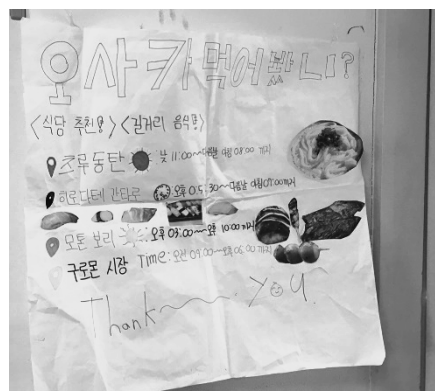
1. 小学校6年生社会科「おいでよ！大阪は初めてでしょ？」

①小学校6年生「おいでよ！大阪は初めてでしょ？」授業の概要

本授業は、多文化教育を目的とした授業であり、日本の大阪への旅行計画を立て、本時ではその説明をするというものであった。以下、子どもがグループごとに建てた旅行計画の一部である。



(写真：大阪計画①)



(写真：大阪計画②)

大阪計画①は、関西国際空港から大阪市内までの交通手段及び費用について調べたものである。インターネット等を使い、具体的な価格、時間が示されている。大阪計画②は大阪の美味しいも

のを挙げたものである。どこの店で食べられるのか、電話番号とともに示されている。

「旅行計画」を通して、日本についての理解を深める構成となっていた。設定されたテーマが見事であり、日本でも実践できる授業である。

②小学校6年生「おいでよ！大阪は初めてでしょ？」指導案

○対象：第6学年3組(男11, 女11, 計22人)

○日時：2018年11月30日(金) 9:40~10:20

○場所：6学年3組教室

○授業者：유정희 光州教育大学校光州附属小学校教諭

○本学習授業デザイン

単元と次時	‘おいでよ！大阪は初めてでしょう？’ PBL(4/5)		
学習主題	私だけの大阪旅行計画たてること		
成就基準	世界の色々な地域の人々の多様な人生の姿で発見できる類似性と差異点を地理的観点で理解して、文化的差を尊重する姿勢を持つ。		
学習目標	日本、大阪の多様な文化を体験する旅行計画を説明することができる。 日本、大阪で体験できる多様な資料を探すことができる。		
中心, 教科の力点	審美的感性, コミュニケーション能力, 創造的な思考力	性格特性	尊重、傾聴、疎通

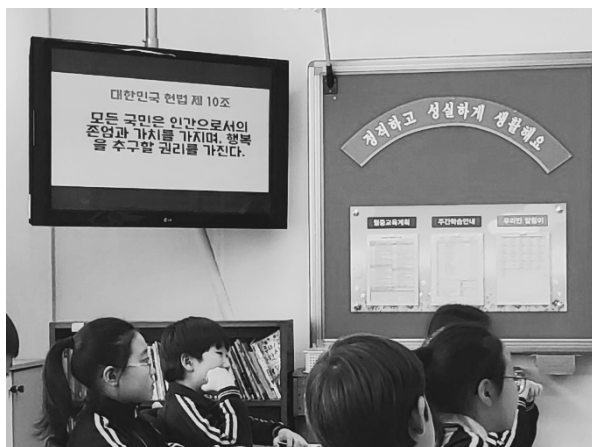
過程	中心内容	学習活動	資料(□)及び注意点(○)
導入 (5分)	動機 誘発すること 学習主題 把握 学習活動の案内	○「おいでよ！大阪は初めてでしょう？」PBL 全体過程を調べること - PBL 全体過程および今日学習授業の位置把握すること ○学習主題を調べてみること ＜学習主題＞ 日本, 大阪旅行計画を立てること ○学習活動の案内 1. 大阪旅行を紹介すること 2. 各自で旅行計画を立てること	○全体 PBL 過程のうちで今日学習授業の位置と学習活動に対する理解を容易にできるように支援する。 ○多様な関心主題により大阪を旅行する方法を探し、発表してみることに よって世界の色々な文化に対する関心を高める。
展開 (30分)	学習の場	＜活動1＞大阪旅行を紹介すること -各自関心主題によりチームを構成し、インターネットでも本などの資料を通じて調査した内容を発表する。	□発表資料 □チェックリスト ○自身の関心分野に関わるテーマを踏まえ、多様

		<p><活動 2>私だけの旅行計画たてること</p> <p>-他のグループの発表内容を聞き、私だけの旅行計画たてること</p> <p>-私の関心分野や旅行主題により私だけの旅行計画たてること</p>	<p>な旅行計画が立てられる可能性があることを理解することができ、相互理解と協力をすることができる。</p>
<p>終結 (5分)</p>	<p>学生 生き方 連携すること</p> <p>学習 省察 下記</p> <p>時事予告 下記</p>	<p>○学生の人生と関係して表現すること</p> <p>-私が他の国を旅行する時に困ったこと、我が国で生活する他の国の人々の困難は何があるのか考えてみて話し合うこと</p> <p>○学習を通じた省察とまとめ</p> <p>-自身が省察した内容を友達らと共有すること</p> <p>-学習活動により知ることになった内容、さらに知りたいのは何か、私の生活の姿振り返りを話すこと</p> <p>○時次の予告をすること</p> <p>-宿泊、移動方法を含んだ私だけの旅行計画たてること</p>	<p>□動画資料</p> <p>○自由な雰囲気でお互いの考えを共有できる環境を作る。</p> <p>○学習活動により感じた点、多文化社会で私たちの心と態度を含んで自身の省察、感じた点などを自由に話すようにする</p>

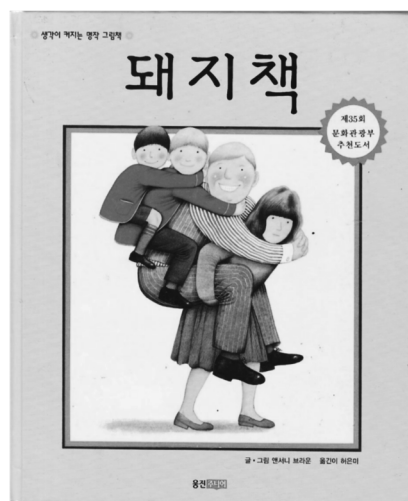
2. 小学校4年生社会科「お母さんの行動は正しいのだろうか？」

①小学校4年生の社会科「お母さんの行動は正しいのでしょうか？」授業の概要

本授業は、法・規範の学習を目的とした授業であった。絵本『豚の本（邦名：おんぶはこりごり）』にある母親の行動を、「基本的人権の尊重」の観点から検討するというものであった。



(写真:授業の様子(憲法条文の確認))



(絵本表紙:豚の本(邦題:おんぶはこりごり))

写真にあるように、導入において、韓国の憲法の条文にすべての人の基本的人権が尊重されるべきであることが記載されていることを確認する。次に、専業主婦の母親の家出により、食事、掃除などの家事を自分たちで行わないといけなくなったその夫、その子どもたちの物語である絵本『豚の本：邦題：おんぶはこりごり』に立ち返り、母親の行動について、基本的人権の尊重という観点から、意見交換を行うという流れになっている。

「お母さんの家出」という、日本の学校から見ると、早すぎる内容のように感じたが、母親という役割について、家事について、様々な観点から意見が出ており、十分に議論できる内容であると感じた。

②小学校4年生の社会科「お母さんの行動は正しいのでしょうか？」指導案

○対 象：第4学年2組(男12, 女12, 計24人)

○日 時：2018年11月30日(金) 11:00~11:40

○場 所：4学年2組教室

○授業者：김경훈 光州教育大学校光州附属小学校教諭

○学習の授業過程

単元及び次時	4. 家族の形態と役割		
学習主題	“お母さんの行動は正しいのだろうか？” 1:5 討論すること		
到達基準	昔と今日の結婚風習と家族構成を比較し、時代別家族の姿と家族構成員の役割変化を探索する。		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ○お母さんの家出に対する問題原因と解決方法をいうことができる。 ○お母さんの望ましい行動について 1:5 討論を通じて探ることができる。 ○討論活動時相手方の意見を認めて尊重する態度を持つ。 		
核心・教科・能力	知識情報処理能力, コミュニケーション能力	性格特性	疎通、尊重、配慮、協同
学習資料	モデム黒板, ボードマーカー		
私だけのアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1:5 討論を通じてお母さんの望ましい行動は何だろうか多様な意見の場, 短所調書を聞いてみて, 自分なりの方法を考える。 ○ 1:5 討論方法を活用して、学生たちが家庭人権問題に対して根本的な原因と解決方法に対して考えて話せる機会を提供する。 		

過 程 (分)	中心内容	学習活動	資料 及び注意点
学 習 の 開 始 5 分		<ul style="list-style-type: none"> ○学習主題 調べてみること <学習主題> お母さんの望ましい行動に対して 1:5 討論すること 	

		<p>○学習計画たてること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習主題を見て、今日活動する学習計画を理解しましょう。 - 1:5 討論すること - 私だけの解決方法整理すること 	
学 習 の 展 開 30 分	<p>私たちのクラス ごみ問題 解決すること</p> <p>東北 アジア問題 解決すること</p>	<p>○活動1 <1:5 討論すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豚の家」におけるお母さんの家出に対してどう思うのか語り合ひましょう。 - お母さんの行動に対する自身の考え話すこと ・ 1:5 討論を通じてお母さんの望ましい行動は何かなれば良いのか討論してみましょう。 -1 グループでの立論→ 2, 3, 4, 5, 6 グループ交差調査→グループ立論→ 1, 3, 4, 5, 6 グループ交差調査→3 グループ立論→ 1, 2, 4, 5, 6 グループ交差調査→..... →6 グループ立論→1, 2, 3, 4, 5 グループ交差調査 <p>○活動2 <私だけの解決方法整理すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの望ましい行動に対して私だけの考えを整理してみよう。 - 討論後多様な意見を踏まえ、私だけの考えを整理すること ・個人別で整理した内容を持って帰り、討論活動をしてみましょう。 -戻って書き討議討論すること -結果発表 	<p>○他のグループの意見を総合して整理可能だと説明する。</p> <p>○学生たちは個人別に他の色のペンを活用して他の友達と共有し、整理することができるようにする。</p>
学 習 の 終 結 5 分	<p>学習のまとめ 及び省察 時次の予告及 び課題の提示</p>	<p>○学習のまとめ及び省察</p> <ul style="list-style-type: none"> -学習を記録し、学習を自身の生活と関係するために互いに話をし、共有する。 <p>○次時の案内すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにのせた多様な家族形態の事例を見て学習ノートに整理することができるように案内する。 	

③光州教育大学での授業検討会

また、見学の後、授業検討会を行い、各授業について学生同士でディスカッションを行った。まず、授業者に授業の意図について説明した。それを受け、①事実の確認（意図が分からなかったこと）、②良い点・悪い点、日本の授業との違い、③日本から見た韓国の授業の特徴、④①～③を受けての韓国の学生からの疑問などを出し合い、議論を行った。



「多文化教育」の捉えが日韓で違うのではないかという新たな論点が出たことにより、次の研究につながるものになったといえる。

4. おわりに

本研修では、授業見学・検討を通して、主権者教育について、主に「多文化」の観点から考えた。研修に当たり、光州で起こった民主化運動を扱った映画を通しての学習をしていたことにより、実りある交流ができたと考える。社会科は、当該国の歴史・文化と密接な関係があるため、単に授業を見るだけでは、日本から見た視点にとどまってしまう、グローバル教員に必要な資質・能力の育成につながらない。事前の学習を通して、相手国の現状をある程度把握し、双方の考え方の違いを共有する場として、研修を捉えることが必要といえよう。

最後に、今回の交流は、光州教育大学からの支援と協力の上で成立したものである。今後、このような交流が単発で終わらないよう、光州教育大学との連携をさらに、深めよりよい研修へと高める必要があるといえよう。

平成 30 年度 鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 参加報告書

社会科教育プログラム ～社会科における主権者教育の国際比較～

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科

教科・領域教育専攻 社会系コース

学籍番号 16815152

氏 名 平野 裕大

1. 本研修の目的

日本と韓国の多文化を題材とした社会科の授業を比較し、よりよい多文化教育の在り方について検討することを目的としている。

2. 研修期間

光州教育大学での授業見学などを中心とした研修は、平成 30 年 11 月 29 日から 12 月 2 日まで行った。

3. 研修内容

授業見学，検討会，学内見学，ソウルでのフィールドワークを行ったが，ここでは，光州教育大学附属小学校にて 6 年生と 4 年生の授業の様子について報告する。今回見学した授業は，いずれもグループ活動をメインとした討論中心の内容であった。

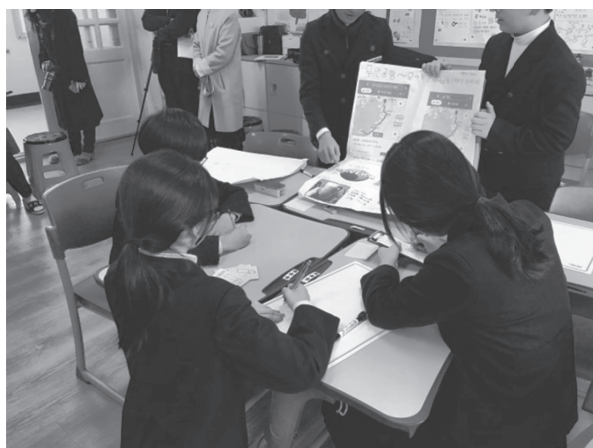
(1) 6 年生の授業「おいでよ！大阪は初めてでしょう？」

この授業では，事前にグループで大阪について調べたことを模造紙にまとめて，発表するという内容だった。

まず授業の導入部では，中央に児童全員が集まり，一人が前に出て発表をしていく形で行っていた。

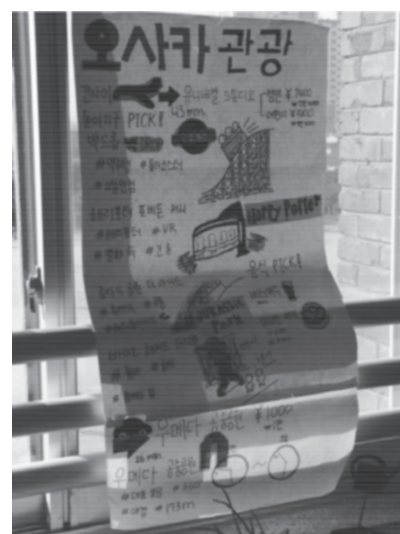
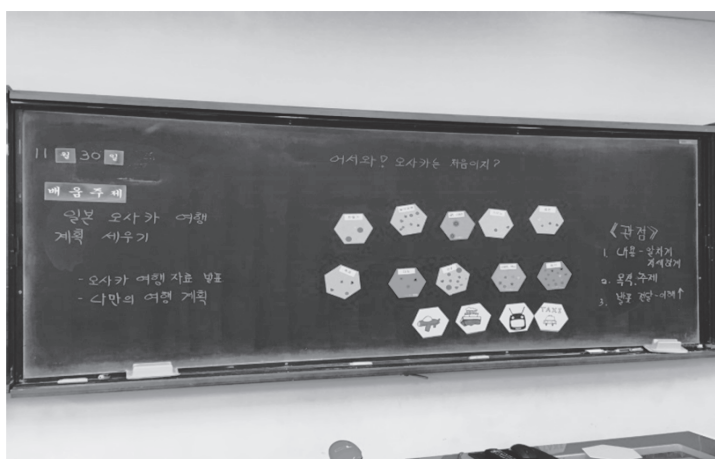
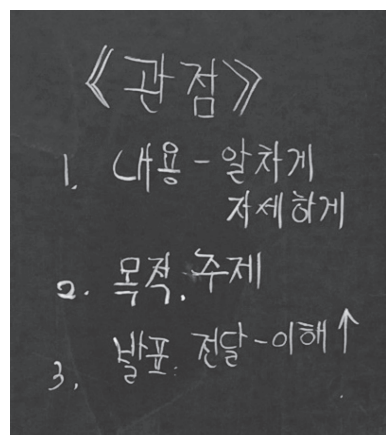
そして展開では，「大阪で行ってみたいところ，食べてみたいもの」などをまとめた模造紙を基に，グループで発表し合う形で行っていた。それを A と B グループに分かれて交互に発表を行っていく。その際はグループ内で 2 名が残って発表を行い，2 名が他グループの発表を聴きに行くというジグソー学習の形で行っていた。発表は先生がチャイムを鳴らして交代しながら行う。また発表を聴く児童には，配布した付箋に質問内容を書いてそれを基に質問を行っており，全グループの発表終了後に 3 つの評価基準から，A は B，B は A の良かった発表にシールを張り付けていた。

最後に終結では，1 つのグループごとにシールを張った理由を聴き，それを基にして①どのような目的で大阪に行くのか，②行った際に直面する問題について話し合いを行って



いた。その話し合いの後に、日本人が韓国人に抱くイメージについて語ったインタビュー動画を見せて授業が終了した。

この授業では、児童自身が大阪について調べ、まとめているが、授業を行った先生によると旅行雑誌を3冊提供したのみであって、児童が旅行雑誌以外にインターネットなどを積極的に活用して模造紙にまとめていた。そのため、実際に訪問ができるような計画ができていた。そのことから、実際に訪問するという前提の下、大阪の娯楽施設、食べ物、文化について調べることを通して、他国の文化について考えるという授業となっていた。



(2) 4年生の授業「お母さんの行動は正しいのだろうか？」

この授業では、韓国で有名な絵本である「豚の家」を主題として、その絵本に登場する母親の行動について「1.5 討論」を活用して語り合うという内容であった。この「1.5 討論」とは、全6グループ(4人組)のうち1グループが発表を行い、残りの5グループが質問を行うといった討論形式のことである。

まず導入部では、学習主題についての確認を行っていた。その内容は、①「1.5 討論」を行うこと、②私だけの解決方法を整理することの2点である。

そして展開①では、予め全グループの意見を決定し、1グループが3分間で発表、残りの5グループの児童が質問をするという形で「1.5 討論」を行っていた。児童の様子としては、各グループが主張を展開し、それについて他グル

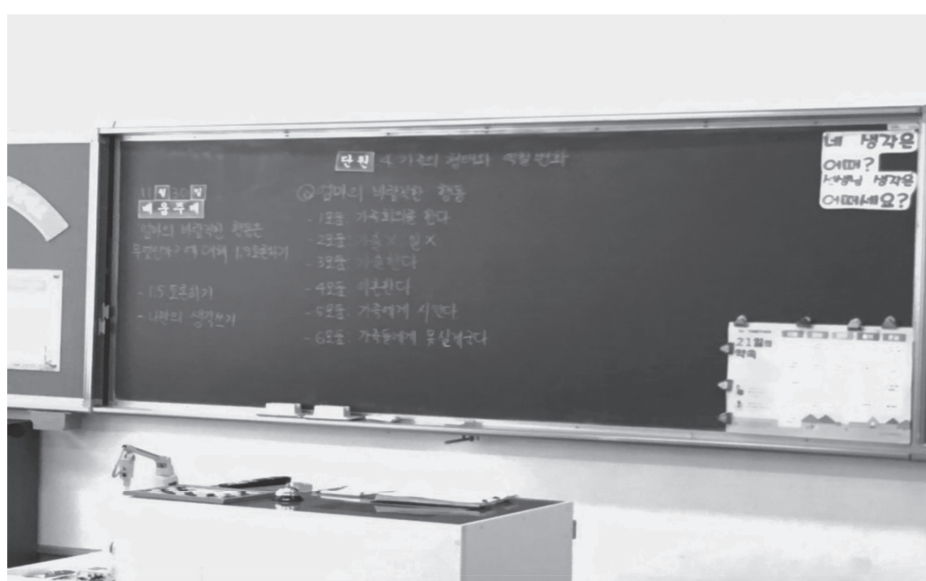


ープの児童が積極的に質問や意見をぶつけていた。またその中で、指名されなかった児童が悔しそうに座っており、自分の意見を言いたい児童が多いと印象が残った。

次に展開②では、私だけの解決方法を整理する活動を行っていた。それは、①討論後の意見を踏まえてノートに自分の意見をまとめる。②ノートをグループ内で回しあって意見を書き合い、それを踏まえて自分の意見を整理し直す。この2点を行っていた。

最後に終結では、学習のまとめと省察を行い、授業が終了した。

この授業では、児童が全員で参加できる討論を目指して行っており、そのために興味・関心を刺激できる絵本を使用していた。しかし、検討会において、「家族の問題についてを扱った内容であったため、離婚など児童にとってデリケートな内容が討論の際に挙がっていた。そのため、この題材を扱うのは難しいのではないか」という指摘がされていた。しかし、授業を行った先生によると、「問題解決の過程には葛藤や対立がある題材が必要であり、その中で児童の関係性の調整を行うことが大切だ」としていた。



(3) 授業検討会

この授業検討会では、主に多文化教育について検討を行った。その中で日本と韓国の多文化教育についての考え方が違うことが分かった。日本においては、多文化が見えづらい環境があるため、「みんな仲良く」という意味合いが強い。しかし、韓国では多文化教育について良いイメージがない。そのため、差別や偏見をなくすという目的の下、多文化理解を深める必要があるというような違いがあった。そのため、日本は国内の多様性、韓国は国内の多様性がメインになっているということが分かった。

4. 研修の考察

6年生では「ジグソー学習」、4年生では「1.5 討論」という学習形態を取り入れており、グループによる話し合いをメインとした授業となっていた。そのため、授業内でそれを行うに当たっての環境設定が多くされていた。

まず机が「コの字型」になっていた。自分自身も高校時代にこの「コの字型」で授業を行っていたため、懐かしく感じた。この形態で授業を行うことでグループ活動が行いやすく、また発表者に対して注目しやすくなっていた。

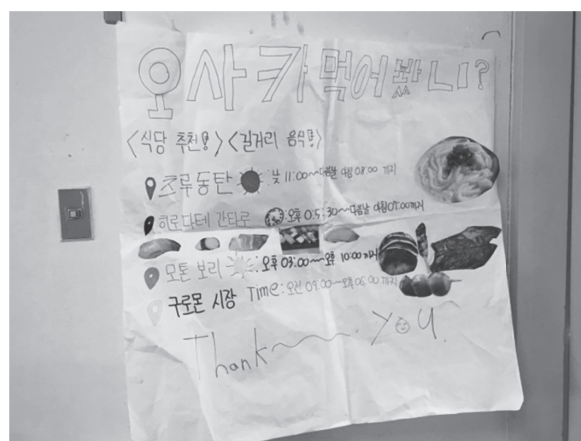


そして、発表に対しての評価を行うために、基準を設けるなどの評価ツールを準備することやグループ内でノートを回しあって、意見を整理するなどの活動を行っていた。

以上の環境設定を行っているためか、児童たちは積極的に発言を行い、表現豊かな発表を行えているのだと感じた。そのため、グループ活動を行う上でのヒントとなる内容が多くあり、今後参考にしていきたい。

また、多文化教育について2つの視点を垣間見ることができたと感じた。それは、①他国の文化を知る、②全員が討論に参加し、価値観や意見などを共有するという2点である。

まず、①他国の文化を知るについてだが、これに該当するのは6年生の授業である。この授業では、大阪に訪問する前提から計画を立て、発表するという内容になっている。この過程において児童は、大阪の観光名所や食べ物、服装などを調べることになる。この中で日本人の価値観やマナー、文化などに気付くことができるようになっていく。そのため、児童が自発的に調べることのできるテーマを与え、調べさせることに



よって、知識を得ることで他国の文化を理解するという内容となっていた。

次に、②全員が討論に参加し、価値観や意見などを共有するについてだが、これに該当するのは4年生の授業である。この授業では、「1.5 討論」を行うことで、自分と他者の意見を共有し、自分なりの解決方法を整理するという内容となっている。この討論を行うためには、(1)児童全員が参加できる題材を用意すること、(2)葛藤や対立を生むようにすることの2点が必要となる。特に(2)については問題解決の過程において必要であり、その際には、授業者が



児童同士の関係の調整を行うことが大切となる。そのため、児童同士が葛藤や対立を含んだ問題を解決するために、話し合い、他者の意見や価値観に触れて、自分なり解決方法を整理するという内容となっていた。

以上のような2点を授業見学において感じる事ができた。

平成30年度 鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム 参加報告書

社会科教育プログラム ～社会科における主権者教育の国際比較～

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科

教科・領域教育専攻 社会系コース

学籍番号 16815106

氏 名 手古 直規

1. 本研究の目的

日本と韓国の社会科の授業を比較し、多文化教育の発展に繋がるための授業のあり方について検討するとともに、フィールドワークを通して韓国の人・街・文化を体感することを目的としたものである。

2. 研修期間

平成30年11月29日（木）から12月2日（日）まで行った。

3. 研修内容

授業見学，検討会，学内見学，ソウルでのフィールドワークを行ったが，ここでは，光州教育大学の学内見学及びソウル市内でのフィールドワークについて報告する。

(1) 光州教育大学 学内見学

授業見学の前後，附属小学校内の見学と大学内施設の案内を行っていただいた。附属小学校内では，各教室，理科室やグラウンドの紹介の他に，設立以来の記念品等を保管する部屋やキムチに使う白菜の栽培を子ども達が行う畑など日本では見られない施設の案内も行っていただいた。大学内施設では，多文化教育を行うための施設「多文化博物館」の紹介があった。各国の情報等が高度なICT機器を介して学習することができる。また，世界的に有名な図書がそろったユニークなブースや，多数の言語による童謡を聞くことができるガイド機器などがあった。学内図書館も非常に充実しており，教科書に関しては国ごとに，数十冊単位で保管されているため，必要な際にすぐに利用できる体制が整っている。食堂では，ビュッフェ方式のように皿に取り入れていくスタイルであった。合計で三度，食堂を利用したが，必ずキムチはついており，ほとんど全てのおかずには辛さを感じられるものが入っていた。食事を共にした学生に聞いたところ，韓国の食事では必ずキムチは登場し，食べない日はないと言っていた。



写真Ⅰ 「白菜（キムチ用）畑」



写真Ⅱ 「各国の情報ガイド機器」

(2) 国立古宮博物館，大韓民国歴史博物館

ソウル周辺文化施設見学の一環として，国立古宮博物館と大韓民国歴史博物館を訪れた。国立古宮博物館は500年以上にわたる朝鮮王朝・大韓帝国期の歴史と文化を受け継ぐ王室専門の博物館であり，関連する遺物を約4万点所蔵している。玉座や各種装飾物，儀式用の印章など朝鮮王朝の様々な姿を見ることができ，ミュージアムショップやラウンジなども併設されている。また，館内では博物館教育プログラムとして，一般から学校及び教育団体向けに様々な教育プログラムが実施されている。李王朝の創始者李成桂が1394年に建てた王宮である景福宮の中に位置し，アクセスも便利である。



写真Ⅲ 「国立古宮博物館 正面」



写真Ⅳ 「金宝の展示」

大韓民国歴史博物館は，19世紀末の開港期から今日に至るまでの韓国の歴史を後世に伝えるための博物館である。「1876年～1948年の国権回復と独立について」，「1948年～1961年の政府樹立と朝鮮戦争について」，「1961年～1987年の経済成長と民主化について」，「1987年からの民主主義の発展について」，四つのブースに展示室が別れている。年代ごとに韓国の歴史が展示品を通してわかりやすく紹介されており，シアター上映等も行われていることから，当時の韓国の状況のリアリティを感じることができる。また，終戦の日である8月15日が光復の日と示されていることや安重根追悼記念ポスターなどからは，歴史的事実に対する見方，捉え方の違いを感じ取ることができた。パンフレットが複数言語で用意されており，当日，鉛筆とノートを持った子どもたちと先生が学習している姿も見受けられた。

これら二つの博物館はどちらも無料で入場することができる。また，どちらにも子どもが学習するためのスペースや催しが用意されており，入場料が必要な日本と比較した場合，より多くの人が気軽に学習する機会を獲得できるのではないかと感じた。



写真VI 「安重根追悼記念ポスター」



写真VII 「朝鮮総督府刊行 修身書」

(3) 食文化

近年の韓国ブームにより日本でも韓国料理を食する機会が増えた。しかし、現地での本物の韓国料理は想像を上回る驚き、魅力があった。韓国料理の基本スタイルは、銀色の長い箸に銀色の器を用いる。食事の際には器は持たず、時にはスプーンも併用する。また、宴の席では、儒教に基づく目上の人をたてる作法が数多く存在していた。他にも、皿の料理を少量残すといった文化があり、全て食べきってしまうとまだ足りないという意思表示になってしまうこともあるという。

店舗での食事では、つきだしに、その店の店主が漬けたキムチが出されるのがほとんどで、各店ごとの味の違いを楽しむのもまた一興であった。光州では伝統料理、ガンギエイの発酵させた切り身（ホンオフェ）をいただく機会があり、現地の人でも苦手な方々が多いと言われる臭気の強い食べ物を体験できた。その味は想像以上のものであり、酸味と刺激が口や胃を襲うものであった。ソウルにおいては、今や日本で味わうことのできなくなったユッケや生センマイをいただいた。鮮度の保たれた牛肉であるからこそ提供できるのであろうが、なにより調理場に目を移すと非常に衛生的で清掃が行き届いている様子であり、徹底した管理を行っていると推測される。ところで日本においてユッケは、焼肉店でいただくものだったが、韓国ではユッケだけで専門店舗を構えており、周辺には数多くの屋台が立ち並ぶなど、何店舗もハシゴできるようなスタイルが広がっていた。

本場の味というものを体感できた喜びの反面、日本で食べていたものは、やはり日本人の口にうけるような形で伝播していたのだと実感した。食を通して、食べ方やマナー、店舗スタイルの違いなど食の異文化を学ぶことができた。



写真Ⅶ 「ホンオフエなどの伝統料理」



写真Ⅷ 「ユッケ専門店」

4. まとめ

今回の光州教育大での授業研究，検討会やフィールドワークを通して，今後のグローバル社会を生き抜くための多文化教育や国際協調，国際理解が重要だとより強く実感した。この度のプログラムで得た学びの糧に，学び続けていきたい。

平成 30 年度 鳴門教育大学
グローバル教員養成プログラム報告書
社会科教育プログラム～社会科における主権者教育の国際比較～
(大韓民国)

発 行 平成 31 年 3 月 18 日

編集・発行 鳴 門 教 育 大 学
〒772-8502

徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748

印 刷 (協)徳島印刷センター